

【授業の視点】

- ・主人公以外の視点（エーミール）で作品を読み、エーミールを語り手として書き換えたことは、主人公の視点では気付かなかった表現に着目して人物像や心情等について理解を深めるために有効だったか。

I 育成を目指す言語能力

場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。〈C 読むこと (1)ウ〉

II 単元名 「読みを深め合う『少年の日の思い出』 ヘルマン＝ヘッセ [訳] 高橋健二 (三省堂)

III 単元の考察

1 教材観

本教材は第1学年の文学的文章のうち4番目に取り上げる作品である。いわゆる額縁構造を持った作品ではあるが、不完全な額縁構造である。現在から回想場面に移り、「チョウを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰してしまった。」という回想場面のまま物語を終えることで、今もなお癒えない後悔の思いを強く印象づけている。

大人になった「ぼく」が語り始めた「少年の日の思い出」は、決して甘美な思い出ではなかった。

「私の末の男の子が、……」や「私たちは子どもや幼い日の思い出について話し合った。」という記述から「ぼく」は40歳前後ではないかと想像できる。「ぼく」は、12歳の頃の「話すのも恥ずかしいような出来事」を今でも鮮明に覚えている。子どもとはいえ、人の物を盗んで壊してしまったのだから、忘れようにも忘れられないことだろう。いくら反省しても、「盗み」をしてしまった事実は消せないことであり、「ぼく」は「悪いヤツ」なのだが、犯罪者の「ぼく」に同情して、被害者であるエーミールを「嫌なヤツ」と感じてしまう読者が多い。それは、エーミールを「非の打ちどころがないという悪徳をもっていた。」とか「こっぴどい批評家」と決めつけ、「ぼく」が盗みを犯してしまった時の切羽詰まった心情や、壊してしまったときの状況を「ぼく」の立場から語っているからであり、チョウを壊された被害者エーミールの気持ちについては書かれていないからではないだろうか。

人間は矛盾をはらんだ存在であり、人と人とが暮らす社会で起こる出来事も単純に説明できるものばかりではない。加害者である相手に対して激したり、どなりつけたりする対応と、「ちえっと舌を鳴らし」「罵りさえしない」対応と比較したとき、どちらが相手にダメージを与えるかなどは分からない。エーミールは、冷淡にかまえ、軽蔑的に見つめていたことで、「ぼく」をますますつらくさせている。エーミールは、「ぼく」に痛手を負わせるために冷淡に構えたのではなく、あまりのショックでことばを失ったのかもしれないが、「ぼく」や読者は、そうとは考えられない。

また、エーミールがクジャクヤママユをだいなしにしたのは「悪いやつがやったのか、あるいは猫がやったのかわからない」と言ったときに、「ぼく」は「ぼくがやったのだ」と告白していることは、「ぼく」の正直さが分かるところである。「ぼく」が「猫がやったのかもね」とごまかさなかったことも、読者が「ぼく」の味方をしたくなる場所かもしれない。正直に言うことの大切さとともに、正直に言ったために辛い思いをすることもあることが分かる。

物語は、「一度起きたことは、もう償いのできないもの」という「悟り」で結ばれる。謝罪が受け入れられず、救われない結末に違和感を覚え、罪や償いについて考えさせられる教材である。

2 生徒の実態 一省略一

### 3 教材の系統

読むこと

『オオカミの友だち』 きむら ゆういち 作

・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、登場人物の気持ちの変化を捉える。



『空中ブランコ乗りのキキ』 別役 実 作

・場面の展開や登場人物の描写に注意して読む。  
・登場人物の判断や行動について、自分の考えをもつ。



『字のない葉書』 向田 邦子 作

・登場人物の心情の変化について、叙述を基に読み取る。



『少年の日の思い出』

・場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。  
・作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。



『トロッコ』 芥川 龍之介 作（額縁構造の作品）

・情景や行動の描写に表現されている、主人公の心情の変化を読み取る。  
・文脈の中のことばの意味を的確に捉え、表現の工夫や特徴について考えをもつ。

#### IV 校内研修とのかかわり ー省略ー

#### V 人権教育とのかかわり

本教材では、「非常に難しい珍しい技術を心得ていた」エーミールを、「妬み、嘆賞しながら憎んでいた」ぼくの視点ではなく、生徒が「宝石のように扱っているチョウを潰されたエーミールの気持ち」を想像することを通して、相手の立場に立って考えることの必要性和大切さを学ばせたい。

【育てたい能力・態度】

- 感性：自己を理解し、自尊感情を高めると共に、他の人を大切にする心に共感する。
- 実践力：互いの良さや違いを認め、身近な人権問題を解決しようとする。

#### VI 目標及び評価規準

1 目標 場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。

#### 2 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】登場人物の心情の変化を捉えようとしたり、構成上の効果について自分の考えを持とうとしたりしている。

【読む能力】場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉えている。

【言語についての知識・理解・技能】事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。

#### VII 指導方針

- ・語句の意味を正しく理解させるために意味調べの時間以外にも国語辞典を活用させる。
- ・長い物語なので、「成人している場面」「チョウ集めに夢中になっている場面」「チョウを盗んでしまう場面」「謝罪に行く場面」「家に帰ってチョウを指で潰す場面」と区切ってそれぞれの場面の「ぼく」と「エーミール」について読み取らせる。

- ・主人公についての読み取りに加え、主人公以外の視点(エーメール)で作品を読み、エーメールを語り手として書き換える学習活動を取り入れることで、主人公の視点では気付かなかった表現に着目して人物像や心情等について新たな読みを発見させる。
- ・エーメールの気持ちが書けない生徒には問いかけをしてエーメールの気持ちをことばで言わせ、書かせる。

## VIII 学習計画（全8時間、本時は6時間目）

時間	学習活動	[評価の観点] 評価項目（方法）
1	○本文を通読し、単元の課題を把握する。 【単元の課題】主人公以外の視点で作品を書き換え、登場人物の人物像や心情を捉えよう。 ○「ぼく」と「エーメール」について、どう思うか書く。	[関] 登場人物の心情の変化を捉えようとしたり、構成上の効果について自分の考えをもととしたりしている。（発言・ノート）
1	○漢字の読みを確認し、語句の意味調べをする。 ○登場人物の関係を捉える。 （現在の）客＝友人＝彼＝少年の日の「ぼく」を理解する。	[言] 漢字や語句について理解を深めている。（ワーク） [読] 登場人物の関係を確認・整理し、人物設定を捉えている。（ノート）
2	○場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。	[読] 場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を理解している。（ノート）
1	○「ぼく」の目から見たエーメールはどんな少年なのか、叙述に即して読み取る。 ○「ぼく」がコムラサキを「エーメール」に見せた場面を「エーメール」の視点で書き換える。【書き換えⅠ】	[読] エーメールについて、叙述に即して読み取っている。（原稿用紙）
1 本時	○「ぼく」が謝罪のために「エーメール」を訪ねた場面を「エーメール」の視点で書き換える。【書き換えⅡ】	[読] エーメールの気持ちや考えを、作品の流れに沿って書き換えている。（原稿用紙）
1	○「チョウを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰してしまった」のはなぜか考える。 ○作品構成の工夫や語り手の役割に着目して、小説の続きを考える。	[読] 30年以上経っている現在でも忘れることのできない思い出（傷）であることを理解している。（ノート） [読] 作品構成の工夫を読み取り、その効果について考え、小説の続きを書いている。（ノート）
1	○単元全体の振り返りをする。 ・「ぼく」とエーメールについてどう思うか書く。 ・単元の学習を通して学んだことや、今後に生かせそうなことについて考える。	[関] 学んだことを自覚し、今後に生かせそうな場面について考えている。（ワークシート、発言・観察）

## IX 本時の学習

- ねらい エーメールの視点で物語を書き換えることを通して、登場人物の人物像や心情を捉えることができるようにする。
- 準備 生徒…教科書、ノート 教師…前時までに使った短冊、原稿用紙

### 3 人権教育の視点

- 感性：自分の長所・短所を理解し、長所を伸ばそうとするとともに、エーミールの長所を認め、短所にばかり目を向けない心をもつ。
- 実践力：自分の気持ちだけを優先するのではなく、「エーミール」の立場に立って「エーミール」の気持ちを考えようとする。

### 4 展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
つかむ	1. 本時のめあてを確認する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を確認する。(前時に使った短冊を利用する) (チョウを盗む事件前の「ぼく」から見た「エーミール」に対する表現) ▼非の打ちどころがないという悪徳をもっていた。(p156 4行目) ▼あらゆる点で、模範少年だった。(p156 7行目) ▼ぼくは妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。(p156 8行目) ▼こっぴどい批評家。(p156 13行目)</li> <li>・これらの表現は、誰の視点(語り手)で描かれているか確認する。</li> <li>・「エーミール」は本当に嫌な人物なのか考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 「エーミール」は本当に嫌な人物なのか? ～「エーミール」の視点で物語を書き換えることで、 エーミールの人物像や心情を考えてみよう～</p> </div>
追究する	2. 「エーミール」は本当に嫌な人物なのか考える。  3. 「エーミール」を語り手にして書き換える。	38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>(チョウを盗んだ事件後の「エーミール」に対する表現) ▼「冷淡」「軽蔑的」「冷然」「正義をたてに」「あなどるように」「軽蔑」</li> <li>・エーミールがそのような態度をとった理由を考えさせる。</li> <li>・「エーミール」に対して「冷たい、厳しすぎる」などの意見を拾い上げる。</li> <li>・「エーミール」の言動は「ぼく」の目を通して描かれていることを再度押さえる。 【「ぼく」のチョウやチョウ集めに対する思い入れの強さ】と対照的な【エーミールのチョウを扱う正確さや技術の高さ】に気付かせる。</li> <li>・「ぼく」が謝罪をするために「エーミール」を訪ねる場面(p160 10行目～)をエーミールの立場で書き換える。</li> <li>・書き出しを示し、そのまま続けて書けるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>僕(エーミール)がクジャクヤママユを展翅版に載せて繕っていると、隣の子がやって来た。</p> </div> </li> <li>・読みにくい文字を書く生徒が多いので、原稿用紙を利用する。</li> </ul>
	4. 書いた文章について、感想や意見を交換する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章についてグループで意見交換をするとともに、「ぼく」と「エーミール」の特徴についても話し合う。</li> <li>・「エーミール」は本当に嫌な人物なのか、再度考えさせる。</li> <li>・何(どこの記述)を根拠にそう思うのか、話し合わせる。話し合いでは、異なる意見が出るのが予想されるが、その「違い」を大切にしたい。</li> <li>・「エーミールだってチョウに対する思い入れがあったのではないか。」「『ぼく』はエーミールの思いを考えていない。」のような、エーミールの立場</li> </ul>

		<p>に立った意見が出るように、表現に忠実な読解をしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が偏った場合は、アンケート結果を利用する。</li> <li>・相手の心情を考えずに、一方的な見方で人を判断することの危険性に気付かせる。</li> </ul>
まとめ	5. 本時のまとめ、振り返りをする。	7分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して①何を学んだのか ②どのように学んだのか ③新たな疑問やさらに学習したいこと、などをノートに書かせ、2～3人の生徒に発表させる。</li> </ul>

【評価項目】 ○おおむね満足      ◎十分満足      (観点・評価方法)

○エーメールの気持ちや考えを、作品の流れに沿って書き換えている。

◎エーメールの気持ちや考えを記述に着目して的確に捉え、作品の流れに沿って書き換えている。      (読むこと・原稿用紙)